

第2学年国語科学習指導案

日 時 平成21年9月14日

児 童 2年1組 男19名 女11名 計30名

指導者 菊池恵子

- 1 単元名 ようすを考えて読もう
教材名 中核教材「お手紙」(アーノルド=ローベル)(光村図書 2年下)
補助教材「ふたりシリーズ」(アーノルド=ローベル)他作品

2 単元について

(1) 児童について

ア 既習の学習経験

児童は、「ふきのとう」で、登場人物の会話文や行動を意識しながら役割読みを行い、「誰が」に着目して読む活動を行った。役割読みでは、動作を加え、楽しく音読する児童の姿が多く見られた。また、「スイミー」では、場面ごとに、登場人物の気持ちを想像して吹き出しを書き込み、教材文に吹き出しを付け加えて音読する活動を行った。また、発展読書として、レオ=レオニの作品や動物が登場する作品などを読み、簡単な紹介カードを書いて交流する活動も行った。

イ 読むことの学習で課題と思われること

場面の様子を想像しながら読むときに、何を根拠に登場人物の気持ちを想像すればよいか、糸口がつかめない児童が目立ったが、「スイミー」の学習で教師の与えた視点によって、吹き出しを書く活動を場面ごとに繰り返し行うことで、気持ちを想像することができるようになっていった。

低学年では、登場人物に同化して、気持ちを想像することや繰り返し言語活動を行うことは、有効であると考え。さらに、言葉を根拠にして、場面の様子について、想像を広げながら読む活動は、繰り返し行う必要がある。

また、場面の様子を想像しながら、物語やお話を読むことを楽しいと感じ、それを音読に生かそうとする児童が少しずつ増えてきたが、一方で、どの場面でも、どの登場人物についても同じような読み方になりがちな児童も少なくない。場面の様子や登場人物の気持ちを音読で表すためには、声の強弱や高低、読む速さ、間の取り方などに変化をつけるとよいことは感じているものの、それを実際の音読に生かして表現するまでには、至っていない。

(2) 単元について

新学習指導要領における第1学年及び第2学年の「読むこと」の目標は「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。

本単元では、主述の関係を明らかにしながら、場面の様子や登場人物の気持ちについて想像を広げて読む能力を高め、楽しんで読もうとする態度を育てることをねらいとする。

中核教材「お手紙」は、少しわがままでさみしがりやのがまくんと、行動的で心優しいかえるくんの会話を中心となってテンポよく話が展開していく。ほとんどが、がまくんとかえるくんの会話文で物語が進行していくことから、主述の関係を考えさせながら、誰の会話文なのかを明らかにして読む学習に適している。また、それぞれの登場人物の気持ちの変化やすれ違いなどが分かりやすいことから、会話文を中心にして、登場人物の気持ちを想像しながら読む楽しさを味わうことができると考える。

また、補助教材の「ふたりシリーズ」は、「お手紙」と同一作者で、登場人物もがまくんとかえるくんが中心である。どの作品も、がまくんとかえるくんのそれぞれの性格が表れており、共通して二人の友情を感じることができる。このシリーズを全員が読むことで、「お手紙」に出てくる二人の関係性の理解が深まっていくと考える。さらに、補助教材「ふたりシリーズ」を取り入れることで、中核教材「お手紙」で習得したことを活用して学習し、思考力や判断力、表現力を高めることが期待できると考える。

(3) 指導について

単元のはじめに、「ふたりシリーズ」のブックトークを行い、どのお話にもがまくんかえるくんが登場することを知らせたり、それぞれの題名からストーリーを想像させたりして、「がまくん、かえるくんのお話を読んでみたい。」という思いをもたせたい。また、この単元では、「お手紙」を中心に、会話文などの音読を工夫しながら読み、最後には、学習したことを生かして「がまくんかえるくん音読発表会」を開くことを知らせ、学習の見通しをもたせる。教室には、「ふたりシリーズ」コーナーを設置し、並行読書を行っていく。

「お手紙」を場面ごとに読む学習では、挿絵を手がかりに順序を意識させながら、場面分けをすることができるようにする。また、「誰が」「何をした」か、「どんなことを言った」か、という視点で、全文を読みながら、誰の会話文であるかをとらえ、全文を通読させる。それぞれの場面を読み取る学習では、会話文をどう読めばいいかという観点で読んでいく。登場人物の言動から気持ちを想像させ、言葉を根拠にして音読の工夫をすることができるようにしたい。

また、「ふたりシリーズ」の別のお話を用いて、音読発表会までの準備や音読の仕方をグループで話し合い、主体的に学習を進める場を学習計画の中に位置づけ、「お手紙」での学習を生かすことができるようにする。ここでは、話のあらすじを短くまとめることや主述に気を付けて会話文の役割分担をすることを確かめる。さらに、文章の言葉を根拠に、どのように音読するかをグループで話し合い、ただ、読むのではなく、登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読むことを意識づけたい。

3 単元の目標

【国語への関心・意欲・態度】

○場面の様子や登場人物の気持ちを想像し、楽しく読もうとする。

【読むこと】

○場面の様子やがまくん、かえるくんの気持ちについて、想像を広げながら読むことができる。
(読むこと ウ)

○がまくん、かえるくんの気持ちが表れるように、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。
(読むこと ア)

【書くこと】

○書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うことができる。(書くこと オ)

【言語についての知識・理解・技能】

○文の中における主語と述語との関係に注意して読んだり書いたりすることができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ (カ))

4 単元の評価規準

	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
評価規準	・場面の様子や登場人物の気持ちを想像し、音読練習に取り組んだり話し合ったりしようとしている。	・挿し絵や会話文を手がかりに登場人物の気持ちを読み取って想像を広げている。 ・読み取った登場人物の気持ちが伝わるように、語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。	・手紙を書きたい登場人物を決めて自分の伝えたいことを手紙にして書いている。 ・友達の書き方のよいところを見つけて手紙に書いて、交流している。	・文の中における主語と述語との関係に注意しながら、文章を読んだり書いたりしている。

5 単元の学習計画と評価計画（時数 17 時間）

段階	時間	学 習 活 動	指導の留意点	具体的評価規準 (評価方法)	課 外
つかむ	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">どんな登場人物が出てくるかな？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・アーノルド＝ローベル「ふたりシリーズ」のブックトークを聞く。 ・「ふたりシリーズ」の中の話の読み聞かせを聞く。 「お手紙」ほか 	<ul style="list-style-type: none"> ○本の表紙に着目させ、どの本も「ふたりは・・・」になっていることに気付かせ、中心人物はどれか考えさせる。 ○話の題名を紹介し、児童のリクエストを聞きながら読み聞かせをしていく。 	関：「ふたりシリーズ」の作品に興味をもっている。 (観察・ワークシート)	並 行 読 書
	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">がまくん、かえるくんのお話をつかった学習計画を立てよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの音読の仕方を振り返る。 ・何のために「ふたりシリーズ」を読むのか考える。 ・学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの音読の仕方や国語の学習を振り返り、今回はどんな学習ができるか話し合うことができるようにワークシートを用意する。 	関：声の大小、高低、読む速さ、間の開け方など、これまで学習してきたことを思い出している。 (ワークシート)	
	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">お話を知ろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「お手紙」の音読をする。 ・新出漢字の学習をする。 ・意味理解の難しい言葉を出し合う。 ・場面分けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○挿し絵を手がかりにして場面分けができるようにする。 	関：挿絵を手がかりに場面の様子を考えながら、場面を分けようとしている。 (ワークシート)	
ふかめる	4 5	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">お話のあらすじを考えよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「だれが」「何をした」という視点で、全文を読む。 ・主語と述語を理解する。 ・だれの会話文なのかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「お手紙」の中のいくつかの例文をもとに主語と述語を理解することができるようにする。 	読：「だれが何をしてどうなった話」という形であらすじをとらえている。 (観察・ワークシート) 伝：主語と述語に気を付けて文章を読んでいる。 (ワークシート)	二 人 シ リ ー ズ の 作 品 を 読 み 進 め る
	6	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ばめんのようすを考えて読もう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・悲しい気分で手紙を待つ二人の様子を想像する。 ・1場面の音読の仕方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師がかえるくんの行動や会話文を読み、児童はがまくんの行動や会話文を工夫して音読することができるようにする。 	読：登場人物の言動を根拠に気持ちを考え、想像を広げて読んでいる。 (発言・音読・ワークシート)	
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・大急ぎで手紙を書き、かたつむりくんに託すかえるくんの心遣いを想像する。 ・2場面の音読の仕方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童がかえるくんの行動や会話文の言葉を根拠に音読の工夫を考えさせる。主語「かえるくんは」に対する述語に着目させる。主語が省略されている意味を 	↓	

			考えさせる。		
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちがすれ違う二人の様子を想像する。 ・3場面の音読の仕方を工夫する。 	○グループ学習を取り入れ、主語と述語に着目し、役割読みができるようにする。		
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・とても幸せな気持ちで手紙を待つ二人の様子を想像する。 ・4場面の音読の仕方を工夫する。 	○グループごとに役割分担を行い、会話文の読み方について話し合っ工夫することができるようにする。		
いかす	10.	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「ふたりシリーズ」のべつのお話を音読しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「だれが」「何をした」という視点で、全文を読む。 ・だれの会話文なのかを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「お手紙」での学習を想起させながら、「誰が何をして、どうなったお話」という形であらすじをとらえさせる。 ○主語、述語に着目しながら、音読の役割分担ができるようにする。 	<p>読：「だれが何をしてどうなった話」という形であらすじをとらえている。 (観察・ワークシート)</p> <p>伝：主語と述語に気を付けて文章を読んでいる。 (ワークシート)</p>	
	11. 本時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「お手紙」の学習を生かして、音読のしかたをくふうしよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで音読の役割を決めて読む。 ・がまくんやかえるくんの行動や会話の言葉を手がかりに気持ちを想像しながら、工夫して音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○登場人物の言動に着目させ、登場人物の気持ちを想像させる。 ○グループごとに役割分担をおこない、会話文の読み方について話し合っ工夫することができるようにする。 	<p>読：登場人物の言動を根拠に気持ちを考え、想像を広げて読んでいる。 (発言・音読・ワークシート)</p>	
ひろげる	12.	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">はっぴょう会で音読するお話をグループでえらぼう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・主語、述語に気をつけて誰の会話文か確かめる。 	○主語、述語に着目しながら、役割分担を行い、あらすじをとらえることができるようにする。	<p>読：語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。</p> <p>伝：主語と述語に気を付けて文章を読むことができる。 (ワークシート)</p>	
	13. 14.	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">がまくん、かえるくんのようすや気持ちがよくつたわるように音読しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・音読の仕方で工夫したいことをグループで話し合い、書き込みをする。 ・役割読みをしながら音読劇の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループごとに音読の工夫を書き込むことができるようにワークシートを用意する。 ○どの言葉を手がかりにするか、話し合わせ、音読の工夫を書き込むことができるように指導する。 	<p>読：場面の様子について想像を広げながら読んでいる。(ワークシート)</p> <p>読：読み取った登場人物の気持ちが伝わるように、語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて練習している。 (音読、ワークシート)</p>	

	15.	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">がまくんとかえるくんの仲のよさが伝わるように音読しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生を招いて音読発表会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音読のめあてを確認し、1年生への相手意識を高める。 ○発表していないグループは、友達の発表のよいところを見つけ、メモをとることができるようにする。 	<p>読：読み取った登場人物の気持ちが伝わるように、語のまとめりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。 (発表)</p>
	16.	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">友達の音読発表のよかったところを手紙に書いてとどけよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・音読発表会での友達のよさを手紙に書いて相手に届ける。 ・手紙をもらった相手に返事を書いたり手紙をもらってうれしかったことを発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表会で見つけた友達のよさが伝わるように相手がもらってうれしい言葉を考えさせる。 	<p>書：発表会でメモしていた友達の発表のよさや発表の観点を入れて、手紙を書いている。(手紙)</p>
まとめ	17.	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">主語と述語を使ってみよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語の文を作って友達と交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまで学習してきたことを生かして、主語述語を使った文を作り、友達同士交流させる。また、述語の種類を理解させる。 	<p>伝：主語と述語に気を付けて文章を書いている。 (ワークシート)</p>

6 本時の学習

(1) 本時の目標

○登場人物の行動や会話の言葉を手がかりに気持ちを考え、想像を広げながら読むことができる。

(2) 授業の視点

- ・文章の内容を正確に理解するために、主語・述語の関係に気を付けて、役割読みをグループで行う。
- ・音読を工夫することで、言葉を手がかりに人物の様子や気持ちを想像することができるようにする。
- ・これまでの学習の仕方を振り返りながら、「お手紙」で学習したことを生かすことができるように、音読の工夫を出し合い、グループで練習する活動を取り入れる。

(3) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価 (評価方法)
導入 5分	1 前時想起 前場面までのお話の内容を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・前場面までの様子を想起することができるように、挿絵を提示し、あらすじを確かめる。 	<p><評価> 自分の役割部分を意識して読むことができる。(音読)</p>
	2 本時場面の役割読みを行う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割部分を確認しながら読む。 《読むときのめあて》 ・しゅご・じゅつごに気をつける。 ・声の出し方や間のあけ方をくふうする。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・主述に気をつけて読むよう指示し、誰の会話文なのか、紛らわしいところは確かめながら読ませる。 	
	3 課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「お手紙」の学習を生かして、音読のしかたをくふうしよう。</div>		

展開 3 3 分	4 がまくんとかえるくんの気持ちを考える。 (1) 「お手紙」の学習を振り返り、本場面で生かせる言葉に着目する。(全体) (2) 音読の工夫やその理由を明らかにして、自分の考えをもつ。(個人) (3) グループでそれぞれの考えを出し合う。(グループ) (4) 音読の仕方を話し合い、場面の様子や登場人物の気持ちを想像する。(全体) (5) 全体で話し合ったことをもとにグループで音読練習をし、発表する。(グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・がまくんの気持ちが変わったところが分かるところに着目させ、「ああ そうだったのか。」を中心に考えるよう指示する。 ・かえるくんの会話文のどの言葉で、がまくんの気持ちが変わったのか、確かめさせる。 ・グループで意見を出し合い、音読の仕方を試してみるよう声がけをする。 ・がまくんが安心し、かえるくんの気持ちを理解した様子を考えさせる。 ・ナレーター部分での工夫も考えさせる。「親友でした」 ・全体で話し合ったことを取り入れて音読練習をするよう指示する。 	<p><評価> どのように読むか、また、その理由も明確にして書くことができる。 (発表、ワークシート)</p> <p><評価> 音読の仕方を工夫することができる。 (音読練習、発表)</p>
	終末 7 分	5 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 (1) 読むときのめあてが守れたか、自己評価する。	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードを配り、本時の自己評価を記入させる。

(4) 本時の評価

評価規準	具体の評価規準		
	十分満足	おおむね満足	努力を要する児童への手立て
登場人物の行動や会話の言葉を手がかりに気持ちを考え、想像を広げて読んでいる。	登場人物の行動や会話の言葉を手がかりに気持ちを考え、想像を広げながら、音読の工夫を考え、表現している。	登場人物の行動や会話の言葉を手がかりに気持ちを考え、想像を広げながら、音読の工夫を考えている。	手がかりとなる言葉も示しながら、登場人物の気持ちを考えさせる。どう読むか、対話で導く。

(5) 板書計画

<p>(本文)</p>	<p>かえるくんは がまくんを、しまの上 に ひっぱ り上げました。く</p>	<p>かだい ひとりきり</p> <p>「お手紙」の学習を生かして、音読のしかたをくふうしよう。</p> <p>◎とうじよう人ぶつの気もちがかわるところ ↓あい手の会話文、じけん ◎「お手紙」とにているところ、同じところ ↓「空っぽ」「ああ」「親友」 ↓お手紙の四のばめんとにている。 ふたりのなかのよいようす</p>	<p>①グループでやくわり読み ②自分の考えをもつ ③グループで話しあう ④みんなで話しあう ⑤音読れんしゅう、はつびよう</p>	<p>《音読の工夫》 ・声の大きさ・たかさ ・読むはやさ ・間のあけかた</p>
-------------	---	---	---	--